

城戸かれんさん応援レポート 「シャネル・ピグマリオン・デイズ2016」 2016年10月29日(土) シャネルネクサスホール

シャネル・ピグマリオン・デイズ vol.5

「シャネル・ピグマリオン・デイズ」。
東京・銀座のシャネルビル内のホール、
シャネル・ネクサス・ホールにて開催されて
いるこのシリーズ、若手のアーティストに演
奏機会を提供するプログラムである。
演奏会の名称は、シャネル社創始者である
ガブリエル・シャネルが「ピグマリオン＝才
能を信じ、支援して開花させる人」だったと
いわれていることからのネーミング。無名時
代の芸術家達の支援を続けた「ピグマリオン」
ガブリエル・シャネルのスピリットを踏襲
して続けられている「シャネル・ピグマリオン
・デイズ」。

ちなみに、シャネルが支援した無名時代の
芸術家には、パブロ・ピカソ、イーゴリ・スト
ラヴィンスキー、レイモン・ラディゲ、ルキノ
・ヴィスコンティ、ジャン・コクトーら、そうそう
たる名前が並ぶ。

毎年5名ほどの若手演奏家を支援するこの
シリーズ、2016年はその中に、チェロの上
野通明さん、ヴァイオリンの城戸かれんさん
の財団奨学生2名が選出されている。
それぞれのアーティストは、1月からの1年
間に、シャネル・ネクサス・ホールにて年6
回の演奏という素晴らしい機会をいただく
ことになる。

会場のシャネル・ネクサス・ホール。
ブランドロゴと同様に、黒と白で統一された
ホールはとてもシックな空間。プログラムも
黒を基調に制作されており会場内一帯が洗
練された雰囲気である。



6回の演奏会のプログラムは、各々のアー
ティストの自由に任されている。テーマ構成
や選曲にも興味がわく演奏会だ。

城戸さんはこのシリーズ、毎回テーマを設
定し、様々なヴァイオリンの名曲を聴かせ
てくれている。

5回目の本日のプログラムは、ベートーヴェ
ンのソナタを2曲。大伏 啓太氏のピアノで
聴かせてくれる。

客席には多くのお客様。熱心に毎回通っ
てくださるお顔も見える。



その時だからこそできる演奏、深めていきたい



城戸さん拍手に迎えられて登場。シャネルのこのコンサートは、着席するお客様の後方から入場し、拍手に送られながら花道を歩いて舞台上がる形式。演奏者と客席が非常に近いという特徴がある。

本日は最初にトーク。この演奏会も5回目を迎え、マイクを持つ姿も堂に入っている。「…ベートーヴェンは一番好きな作曲家です」。本日はヴァイオリン・ソナタ2番と9番クロイツェル。「…29日なので2番と9番を選んでみました」と会場を笑わせる。

1曲目はベートーヴェンのヴァイオリンとピアノのためのソナタ第2番。ヴァイオリンが良く鳴り、会場中に響き渡る。明るい作風を美しい音色が奏でる。

2曲目はヴァイオリンとピアノのためのソナタ第9番。「クロイツェル」。ベートーヴェンの全10曲のヴァイオリン・ソナタの中でも最高傑作と位置付けられている作品である。静かに始まり激しく華やかに、ピンと張り詰めた空気の中、圧倒的な存在感で弾ききった。

演奏後に届いたレポートには、以下のようなコメントがあった「…クロイツェルソナタは初挑戦となりましたが、今回の共演ピアニストである大伏啓太さんにリハーサルからたくさん教えていただき、とても楽しい初クロイツェルとなりました」「…これは今後ずっと付き合っていくことになる作品だと思うので、その都度、その時だからこそできるクロイツェルになるように、そして年を重ねる度に深めていけたらと思います」。

城戸さん、素敵な演奏でした。また聴かせてください！



終演後、大伏啓太氏と

<演奏会概要>

◆出演

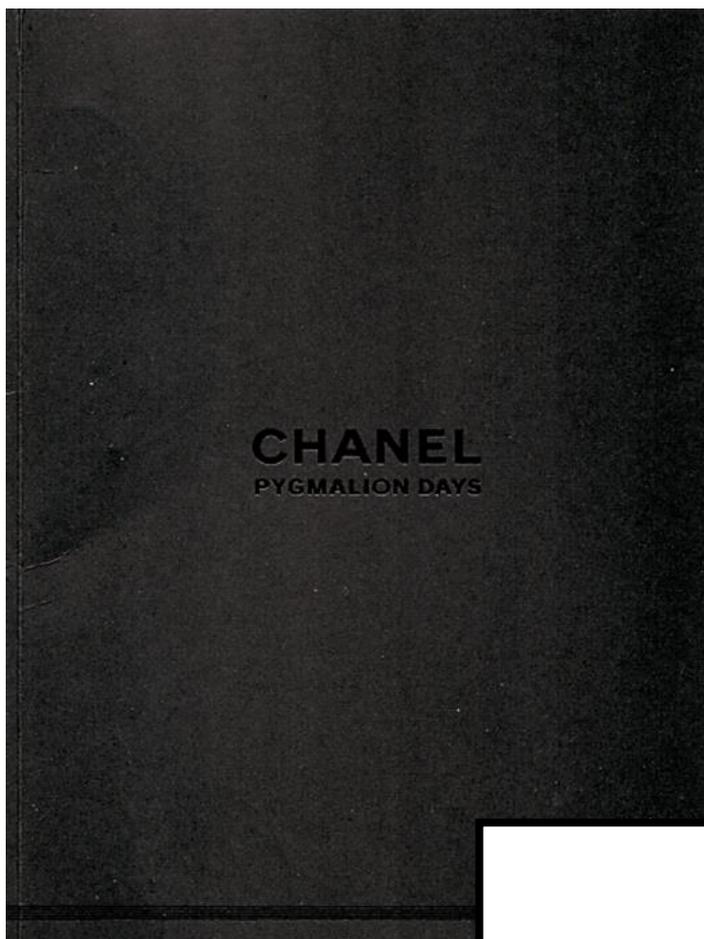
城戸 かれん[ヴァイオリン]
大伏 啓太[ピアノ]

◆プログラム

ベートーヴェン：
ヴァイオリンとピアノのためのソナタ
第2番 イ長調 作品12-2

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ
第9番 イ長調「クロイツェル」作品47

【コンサート・プログラム(表紙)】



【コンサート・プログラム(プログラム)】

2016. 10. 29 CHANEL Pygmalion Days

城戸 かれん (ヴァイオリン)
大伏 啓太 (ピアノ)

ベートーヴェン / *Beethoven*

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 イ長調 作品12-2
Sonata for Violin and Piano No.2 in A Major, Op.12-2

I. Allegro vivace
II. Andante più tosto Allegretto
III. Allegro piacevole

— 休憩 —

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第9番 イ長調
作品47「クロイツェル」
Sonata for Violin and Piano No.9 in A Major, Op.47 "Kreutzer"

I. Adagio sostenuto - Presto
II. Andante con Variazioni
III. Finale. Presto

【コンサート・プログラム(楽曲解説)】

解説

◆ルートヴィヒ ヴァン ベートーヴェン / Ludwig van Beethoven (1770-1827)

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 イ長調 作品12-2

ベートーヴェンは音楽史上、希有の天才と言われる作曲家です。音楽家として致命的な耳の病に悩まされ、恵まれているとはいえない短い生涯でした。しかし、苦難を乗り越えりつ交響曲、32のピアノ・ソナタ、20近い弦楽四重奏曲、その他、偉大な作品を残しています。ハイドゥン、モーツァルトの音楽を継承し、古典音楽の集大成、ロマン主義音楽の先駆を成し遂げた芸術史上の巨人として、「楽聖」と尊称されています。

ベートーヴェンは、ヴァイオリンとピアノのためのソナタを10曲残しています。ヴァイオリン・ソナタ第1番から第3番は作品12として、師であるアントニオ・サリエリに献呈されました。伝統的なウィーン古典派のソナタ形式にのっつた作品で、モーツァルトの影響も色濃く残っています。この作品12が作曲された頃はまだ聴覚の異常もあり、作曲活動に少なからぬ影響がありました。その音楽的才能が一段と開花していきます。

ベートーヴェンのヴァイオリン作品には珍しい気性を感ぜられるものが多いのですが、本作は明るく楽しい雰囲気を持つ曲で、ベートーヴェンの違った一面が感じられる作品です。

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第9番 イ長調 作品47「クロイツェル」

1803年に作曲された9番は、全ソナタの中でも最高傑作と位置づけられており、トルストイをはじめ多くの芸術家にも影響を与え、この曲を題材にした小説や絵画が作られました。

当初この作品は、イギリスのヴァイオリニスト、ジョージ・ブリッジタワーに献呈され、初演もされたのですが、ベートーヴェンと彼との間に何らかの行き違いが生じ、結果的にフランスの名ヴァイオリニスト、ルドルフ・クロイツェルに捧げられました。そのため「クロイツェル」と呼ばれるソナタですが、皮肉にもクロイツェル自身によって演奏されることはなかったようです。

第1楽章は静かなアダージョの後、激情的なプレストへと展開していきます。文豪トルストイは、小説『クロイツェル・ソナタ』の中で、夫の妻に対する嫉妬という感情を表現する場面がこの第1楽章を引用しています。それほど、この曲の美しい激しさに、聴く者への影響力があったと言えるでしょう。第2楽章は、ハ長調を基調とした4つの変奏曲になっており、ヴァイオリン、ピアノそれぞれの持ち味が生かされた見事な変奏で魅了されます。第3楽章は、舞曲形式タランテラの速いアンポで、華やかな終曲へと向かいます。

解説：CHANEL Pygmalion Days プロデューサー 坂田 康太郎

【コンサート・プログラム(プロフィール)】

Karen Kido



城戸 カレン
Karen Kido
Violin

1994年東京生まれ。鎌倉市小・中・高学生音楽コンクール総合第1位、全日本学生音楽コンクール中学の部全国第1位、ミケランジェロ アパド国際ヴァイオリンコンクール(ミラノ)第1位、ジョルジュ エネスコ国際コンクール(ブカレスト)特別賞を受賞。2010年、東京芸術大学附属高校1年在学中に、松方ホール音楽賞、第79回日本音楽コンクール第2位を受賞する。翌年第80回、第3位入賞。東京芸術大学に入学し、大学内にて福島賞(1学年最優秀弦楽器専攻学生)受賞。第8回レオポルド モーツァルト国際コンクール、ヤングアーティスト賞。2016年、第10回カール コールセン国際ヴァイオリンコンクール4位。小澤国際室内楽アカデミー奨励賞をはじめ国内外のセミナーで研鑽を積み、いしかわミュージックアカデミーIMA音楽賞、カール フレッシュアアカデミー協会賞、ミュージックアカデミーJrみやぎ優秀賞及び特別賞を受賞する。東京シテイ・フォル、バーデン・バーデン・フィル、日本フィル、都響、宮崎国際音楽祭管弦楽団と共演。これまでに三戸泰雄、原田幸一郎、津原朝子、堀正文、室内楽を江口玲、河野文昭の各氏に師事。徳永二男、川崎雅夫、Fアモイヤルの各氏にレッスンを受ける。
現在、東京芸術大学4年在学中、ヤマハ音楽奨学生(2011-2013)、江副記念財団奨学生(2014-)、青山財団奨学生(2013)。

Keta Obushi

大伏 啓太
Keta Obushi
Piano

福島県出身。5歳よりピアノをはじめ、模朋学園「子供のための音楽教室」仙台教室に学ぶ。東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学音楽学部を同声会賞、読売音楽新人賞を受賞し卒業。2012年に東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程を優秀な成績で修了。これまでにピアノを庄司美知子、菅野真、多美智子、江口玲の各氏に、室内楽を岡山謙、松原勝也、植田克己、東誠三、伊藤恵の各氏に師事。
PTNA ピアノコンペティションD 秩全国大会ベスト賞、第55回全日本学生音楽コンクールピアノ部門中学生の部東京大会第1位、第57回全日本学生音楽コンクールピアノ部門高校の部全国大会第1位、併せて野村賞、毎日新聞社賞を受賞。第6回安川加寿子記念ピアノコンクール第3位、第75回日本音楽コンクールピアノ部門第3位など、数々のコンクールにおいて優勝、上位入賞を果たす。2015年にはPianale国際コンクール(ドイツ)において第1位となる審査員賞を含む4つの賞を受賞し、16年7月にドイツ4箇所でのリサイタルを開催。同9月にはCDレコーディングを予定。
室内楽奏者としてこれまでに川島成道、今井信子、山崎伸子、栗川展也、W.フックス等、国内外の演奏家と共演を重ね、2014年には第63回日本音楽コンクールにおいて審査員特別賞(デュオ部門共演者として)を受賞。
12年-15年、東京芸術大学室内楽科非常勤講師。現在は同大学ピアノ科非常勤講師。